自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0171401797), 法人名 (医療法人社団 向仁会), 事業所名 (グループホームよろこびの家 住慶 1階), 所在地 (北海道函館市谷地頭町31-8), 自己評価作成日 (令和7年1月5日), 評価結果市町村受理日 (令和7年3月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居者様はほとんどの方が職員が声をかけなくても、ホールに集まり1日を過ごされています。グループホームの生活や、なじみの関係ができています。○季節感のある手作りのレクリエーションだったり、工夫を凝らした行事だったり互いを理解し認め合って楽しく生きていくことを目的としています。○関連施設には様々な施設がある為重度化した場合やリハビリが必要になった場合でも利用者一人一人に合った施設をすぐに紹介する事が出来ます。○函館市内の中でも高齢者が多い町の為近所からの入居が多く、今までと変わらず住慣れた町で過ごすことができる地域に密着した施設である。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022&kani=true&JigyosyoCd=0171401797-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和7年1月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内函館山の山麓地帯である谷地頭にあり、周囲は傾斜地となっているが、古からの戸建て住宅が多く、津軽海峡に接するように建てられたホームは、窓から海峡と函館市内が望め、山と海に囲まれた落ち着いた静かで風光明媚な環境下に立地している。母体である医療法人は、函館市内でグループホームや他サービス事業所を多数展開しており、各事業所とは人員配置を含め連携が強く、一体的な協力関係で結ばれている。職員は毎月自分の介護について検証し、振り返る取り組みを実施しており、職員配置から尊厳尊重、秘密保持等の基本的な姿勢を問う100項目からなる点検表を毎月記入し、事業所を通して本部に提出している。現在も、事業所ではコロナ5類移行後も変わらず感染防止対策に追われており、禍前のような生活に戻りにくい現状の中、新管理者を中心に面会、外出、外泊等、家族と過ごせる時間作りを目標として職員間で協議し、制限の見直し・解除への取り組んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務室に掲示し、向仁会の理念が玄関に掲示し共有した理解のもとに実践している。	事業所理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。介護姿勢、理念の達成度について職員会議の場で検証、協議しながら、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議で2つの町会と交流があり、町会の行事の案内を受けたり、施設の避難訓練に参加してくれたり、地域とつながっています。	二つの町内会と協力関係にあり、資源回収への協力や文化祭の出展、防災避難訓練への参加など地元の人々との連携や協力など日常的な交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会で出前講座などをお願いして職員が改めて勉強をし、経験したことも踏まえ運営推進会議などでも実際にあったこと、家庭内で起きていることなど話あっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価などの内容や実施する前、行った後などきちんと報告するとともに、他と比べて、出来ていないところ、足りないところなど今後の取り組みとしての話をしている。	集合型での会議を実施し、家族、地域関係者、行政の参加を得ている。定例報告に加え、事故、ヒヤリハットや防災関係などを報告し、委員からの意見は事業所のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の介護保険課や介護福祉課、指導監査課は常日頃よりお世話になっています。わからない事は都度はお尋ねしています。	行政へは定期報告や情報交換のほか、運営上の不明点などを相談し、助言や指導を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはご家族にも説明していますし、職員にも説明しています。わかっている、声掛けの言葉だったり、忙しい時の対応が拘束になってることを忘れて使用したりするので勉強会などを開いています。	身体拘束、虐待廃止に関する委員会を設置し、指針を基に定例で開催している。委員会では現状の検証、研修を行い、全職員で協議事項を共有している。不適切なケアと思われる事は、その場で注意し合えるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	向仁会全体としても取り組んでいて、言葉、行動に問題がある場合はすぐ実態把握の調査に入るシステムを取り入れています。すたっふには身体拘束と合わせて、入居者様一人一人の尊厳を大事に接することを話しあっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会などに参加している。実際に成年後見人を利用されている入居者様もいらっしゃって、親族様が高齢でしかも道外に住んでいると言う事で利用されていることもいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は入居当時にきちんと説明している。解約はほとんどが入院、その後死亡などで戻れない状態のところである。契約変更時はお手紙等で説明を行ってiru.		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族は入居料の支払の件での問い合わせが多い。年金出てからのお支払いで良いですか。3ヶ月未払いで退去の対象になる為その間の事ならご事情に対応している。	面会は多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、制限をほぼ解除し、柔軟に対応している。電話や写真を添えたお便りで、生活・健康状態について伝え、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が気にされるのは給料の事や処遇に関してなので勉強会などで説明させて頂いている。	職員会議やケアカンファレンスの場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、出された意見を検証して、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に自己評価、上司の評価の中で職員個々の実績、勤務態度を盛り込んで職員本人の希望も取り上げ職場環境や条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や講演などに参加している。研修の意義を理解し自らも目標をたて個々のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており定期的な後援会などで交流をふかめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	入所前の面談でご本人の希望などをお聞きして、入所してからもちよとした居室訪問時に不安はないか困っている事は無いかなどお尋ねしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いままでの生活の様子、これからの健康管理、経済事情などご家族が不安に思っている事をピックアップして、差し支えない様な質問をし不安を取り除き安心してお家族を入居させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の資料や面談時のお話し、でケアプランを作り、さらに1週間そのケアプランでいいのかモニタリングしながら、次のケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様がまだ出来ることは積極的にやってみて、その上で一緒に生活を作り上げているという思いをもって頂くようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と情報を共有し、何かある事に連絡を密にとり、入居者様に対して、同じく悩み、一番である支援を行う用に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの付き合いの方親戚の方などたずねて来れる環境にしているがコロナ、インフルエンザもあり最近では動画を撮ってあげたりしている。	家族、知人との関係性、面会の機会を大切な事と考え、法人としての感染防止策について理解・協力を得ながら、対面で会話ができる面会環境を提供し、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御茶会、誕生会、レクリエーション、食事の時間、みんなで集まり、みんなで話したり、たぶん名前もわからないのかもしれませんが、いつもの人たちという安心感は生まれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も病院にお見舞いに行ったり、次の施設の紹介のサポートをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホームに入居されてからもご本人の希望や意向をくみ取るようにしている。人生の何ページかをここで過ごすわけですから、ご本人の意に沿ってあげたい。	日々の生活に寄り添いながら、利用者の思いや意向を把握し、穏やかに過ごすことを中心に据えて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時、入居されてからも事あるごとにお話を聞いて把握していきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様、お一人お一人それぞれ違っていいのでその方に合った暮らしを提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はたたき台があり、それにスタッフなどに意見を聞き、出来上がったものはご家族に確認してもらっている。その後も随時モニタリングを行いその時に合った計画書を作成している。	職員相互でモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や主治医からの意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間各入居者様の様子は記録し残している。もちろん次の計画書にも反映しているし、ご家族もいつでも自由に閲覧できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の強みではありますが、各種施設があり、グループホームでは適していない状態になった時はそれぞれに合った施設に移動ができます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、消防署、民生委員、法務支援センター、市役所、保健所の連携を行い安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前面談時にご家族と話し合い決めている。最近では大半が居宅療養管理を同法人のファミリークリニックを受けている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援している。訪問診療による受診や、訪問看護による健康チェックがあり、個人記録を作成し、家族、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人ファミリークリニックと医療連携体制を行っており、週に1回の定期的管理と24時間オンコール体制にて適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医からの紹介状、施設からの介護要約にて情報交換を行い、入院先の担当医、医療相談員、担当看護師と常に連絡を取り合い病院側との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化や終末期に関する方針を説明している。いざその事態が発生した時は改めて終末にあたっての説明、ケアプラン、主治医とかわす同意書等を行って頂き、職員、家族、看護師、医師と一丸となって終末支援を行っている。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応は、連絡方法は常日頃厳格始徹底している。緊急マニュアルや応急手当マニュアルはスタッフルームに常備してある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと年2回実施しているがそれに加えて自主的に自主的に地震事土砂崩れ、津波などを想定して訓練をおこなっている。	町会の自然災害(津波、地震、風雪等)の避難訓練参加や年2回消防署の協力を得て、昼夜間を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室担っておりプライバシーはまもられている。赤ちゃん言葉や友達言葉は使わず、人格を尊重した声掛けを行っている。	職員は接遇や言葉使い、望ましいケアについて定期的に検討している。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴外出お食事、着替え、レクリエーション参加、すべて声掛けしてから行っている。ご本人様の決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にも掲載してあるようにゆとりをもって一人ひとりの生活のペースに合わせて希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく着替えの選択もご自分で行って頂き髪を整えるのもご自分で行って頂き、ご本人らしさをモットーに支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備のできる部分は手伝ってもらったり、後始末でも出来ることを行ってもらい、職員も一緒におないメニューを楽しんでいる。	利用者の希望、季節感を大切に食事を心掛けています。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。コロナ禍においては、行事食で外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今は日綜が献立を立てているので栄養面では心配ない。食事が少ない人には高カロリーの栄養食を医師より処方してもらっている。水分は毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回函館デンタルが訪問している。各入居者様の歯磨き指導や治療にあたっている。それにとまって嚥下体操などを食事の前に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、尿量を調べそれぞれの時間でトイレの音がけを行っている。	トイレでの排泄を基本として、時間で誘導し排泄を促している。その他、利用者個々の排泄サインも職員で共有し、本人が負担にならない様、自然な形で排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、担当医師との協力のもと薬を調節してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は発熱などが無い限り、声掛けしているが、決まって入らないという方がいらっしゃる。その日は無理には進めないが、拒否が長引かない様に次の日は声掛けを工夫したり、入る方向へもっていきます。	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。毎日お湯はりしており、事業所都合ではなく、同性介助等、利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御自分でできる方は自分のペースでできない方は様子を見ながら声掛けしてお手伝いします。その日に来たものは全部洗濯します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスが無い様に、名前の確認、手渡す方は口に入れて飲み込むまで確認している。服用後も変化はないか観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	すべてを満たすのは難しく、レクリエーションでゲームで盛り上がりたり、昔の歌をみんなで歌ったり、特別なことはできないが日々の中で楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年もコロナ、インフルエンザが流行っていて、一人が感染すると間違いなくみんなに移り、外出する機会もことしもままならないかんじです。ご家族が連れ出してくれている。以外なかなかみんなで外出できませんでした。	現在も外出や集団行動は困難となっている。個別に声掛けし日々散歩したり、近隣住民と挨拶を交わす等、新管理者体制となり、制限等も見直しながら、閉じこもらないよう職員間で外出の機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の方はお金は所持していません。たまたま持っている人はしまいこんでみえなくしてしまったり、美容室に行ったら、髪を染めてお金を使ったのなど事実ではないことを言うのでお金の管理はできない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を何人が持っていたが、お金がかかるとやめたりかけるところがわからなくなったりと個人では使用する人がすくなくなった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって室温を考えたり日差しを考えソファの位置を変えたり、食卓の位置を変えたりしている。ここが落ち着ける空間を提供しています。	共用空間は程良い広さで、温・湿度や換気、テレビ音や照明、眩しさも個々の様子を見て都度、調整している。清潔に配慮し、壁には季節の装飾を掲示し、落ち着いてゆったり過ごせるよう、それぞれの心地よい居場所感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御部屋で過ごされる方、ホールのソファはテレビを囲んで、定一が決まっています自然とすわっている。食事の席も決まっていますので特に問題無くすごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のなじみのものを自宅より持参され、使いなれたものや好み野ものを生かし居心地よく暮らせるようになっている。	居室はプライベート空間として尊重し、家族にも協力を得ながら本人の思いに添う物品を持ち込んでもらっている。安全を踏まえながら暮らし易く、それまでの生活が継続できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは居室より出ればすぐ横にあり、ちょっと離れた場所でも手すりをつかまっていけばつく様になっている。段差もなく動きやす。		